

# CMSで サクサク更新 ウェブサイト

ウェブサイト  
イントラネット  
ホームページ



text : フリージャーナリスト増田\*maskin\*真樹 (Blog:metamix.com) illst : 小松恵

## 第10回

# Wikiコラボレーションで企画を練り上げよう① Wikiを知る見る、そして始めよう

ウェブサイト  
イントラネット  
ホームページ



## 他のCMSとは一線を画すWiki

「Wiki (ウィキ) という言葉が、インターネットとのつきあい方を変えるキーワードになっている。ウェブブラウザからだれでも新しいページを追加したり内容を修正したりできるツールの総称である。目次やリンクによる構造を持てるなど、CMSとして機能する側面もある。さまざまな可能性を持つWikiは、個人向けの「情報整理ツール」として、また複数メンバーで使う「コラボレーションツール」として、まったく新しいウェブサイトの使い方を提案する。

### まったく新しい考え方のCMSツール「Wiki」

Wikiは、ウェブアプリケーション型の情報ツールだ。サーバーにインストールして利用するもので、ウェブコンテンツを管理するCMSとして利用できる。適用範囲が広く、単なる情報サイトだけでなく、コミュニティを運営したり、PIM(個人情報管理)ツールとしても利用したりもできる。

そもそも Wikiは、Cunningham & Cunningham社のWard Cunningham氏が、WikiWikiWebという名前で、現在のWikiの原型となるサイトを立ち上げたのが発端になっている(図1)。同氏とそのツールのソースをオープンソースにしたことから、多数のWikiクローン(WikiWikiWebと同様の機能をもったもの)が登場してきた経緯がある。

筆者はかれこれ20年以上コンピュータを使った情報技術と付き合ってきたが、Wikiとの出会いは衝撃的だった。これまで出会ったツールは多々あれど、Wikiほど

取っつきにくく、しかし魅力的なものはなかったのだ。一体Wikiとは何者か? まずはWikiというものを正しく理解しよう。

### 読者にもコンテンツ作成への参加を促すWiki

これまで「情報ツール」といえば「インプットがあって、アウトプットがある」という前提があった。ウェブサイトを作り上げるにも、まずはインプットとなるコンテンツを作り、それを整形してページとして公開してアウトプットとする流れがある。これまでこの連載で紹介してきたCMSツールもその前提に沿ったものがほとんどだった。つまり「発信者」と「受け手」の関係をつなぐものとして「コンテンツ」が存在していたと言っても過言ではないだろう。CMSは、その関係作りに関与し、どちらかと言うと発信者向けに支援機能を提供するシステムである(図2上)。コメントなどの読者参加機能はあくまでもメインのコンテンツとは別に存在するものだし、掲示板はコン

図1 WikiWikiWeb



Wikiの原点となるWard Cunningham氏のサイト。

URL <http://c2.com/cgi/wiki/>

テンツというよりはコミュニケーションを目的としているのでまた異なる。

ところがWikiは、コンテンツの読み手に対して“コンテンツの編集や追加を促す”のである。どうということかと言うと、コンテンツの中の単語に「？」マークが付くことがあり(図3)、これをクリックすると、その単語についての編集ページが開かれる。「編集できます」という具体的な指示が与えられるのだ。あなたがこの単語について知識を持っているならば、編集ページに書き込めば、その単語の名前が付いた新しいページが生成され、「？」マークは新しいそのページへのリンクに置き換えられる。つまり、興味を持った人ならだれでもWiki参加者の1人となり、コンテンツを追加したり編集したりできるのだ。

また「？」マーク以外にも、Wikiのすべてのページに「編集」ボタンが配置されていて、ページを自由に編集できる(図4)。同時に何人もの人が編集することを許されており、同時に同じページに編集を加えた際の衝突を避ける機能や、差分を保存するなどの機能が標準で実装されている。ページ内にコメント欄を設けて、掲示板のように参加を促すことも可能だ(図5)。

のある人物がいれば、コンテンツを削除したり、ページの内容を不正に編集したりできてしまうのだ。このだれにでも開かれた構造がWikiの自由さを保つ要因となっている。もちろん、万が一にも最悪の事態にならないように、Wikiにはバックアップやリストアといった保守機能が実装されており、実に使いやすい形で利用できる。

認証なくだれでも使えるのが Wikiだ

Wikiが特徴的なのは、基本的に認証機能が実装されていない点だ。つまり、悪意

**ユーザー認証を使いたい場合は**

もちろん、クローズドな環境でWikiを使いたい場合は、ウェブサーバーの基本認証を使えばアクセス制限が可能なのは言うまでもない。

図2 Wikiとこれまでのウェブの違い

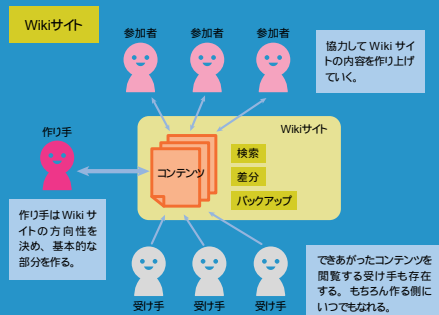
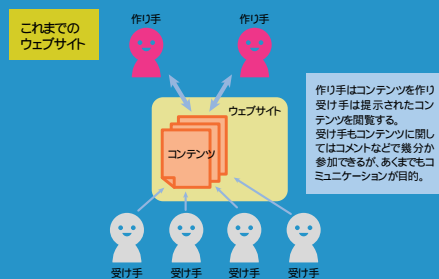
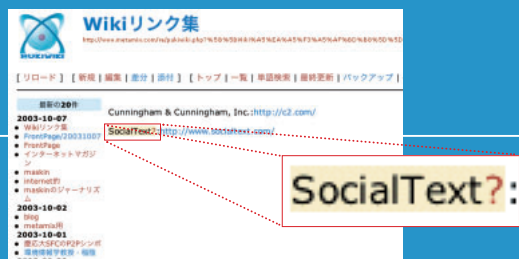


図5 コメント欄の追加もかんたん



簡単な指示で、コンテンツ中にコメント欄を設けることができる。

図3 読者にコンテンツの追加を求める仕組み



Wikiで作られたページの中に表示される「？」マーク。これはリンクだけが用意された“中身の無いページ”の存在を示すものだ。読者は、これをクリックして、情報を書き込むことができる。また上りの「編集」リンクをクリックすれば現在表示しているページの内容を編集できる。

図4 Wikiページの例



Wikiはページ単位で構成される。左側には最近更新されたページ名のリストが、メイン部分にはテキストを中心に構成されたコンテンツが表示される。カレンダーを使って、日記を書くこともできる。上部グローバルナビにある「新規」を押せば新しいページが作れる。「編集」は既存のページを書き換える際に使う。これらのツールはだれでも利用できる。なおスキンプファイルを編集すれば、デザインを変更することも可能だ。

これらの仕組みは、結果として良いバランスを保った状態でWikiシステムの完成度を上げることに繋がっている。実際に、Wikiを一般に公開しても、不正行為などの問題が起こるケースは少ないのが現状だと言われる。

## 紙のように使えるウェブツール「Wiki」

Wikiに関する具体的な説明を始める前に、改めてWikiを比喻で表現してみる。すると、やはりこれは“紙”ではないだろうか。開かれた紙。つまり、匿名掲示板(BBS)が“駅の伝言板”だとするなら、Wikiは“白紙の閲覧板”とか“寄せ書きノート”みたいなものだろう。だれもが自由にページにアクセスし、必要であれば編集したり追記したり、時には新しいメモを書き記したりできる。不特定大多数に向けていないわけではないが、それよりも数十名が一緒になって成果物作りに参加できるツールとして優れたものだとと言えるだろう。この連載では、実験的な要素を踏まえつつ、Wikiを、オフィスや組織内の「企画作り」に使用していくつもりだ。

## WikiとWikiのクローンたち

さて、具体的な作業に進む前に、聞き慣れない言葉「Wiki」や「Wikiクローン」と呼ばれるツールについて説明をしておこう。

Wikiは、実はハワイの言葉で「ウィキ」と発音する。「Wikiwiki」というのが正確な単語で、「速い」「迅速な」「急ぐ」「急がす」「すばやい」といった状態動詞になる。単に「すばやい」「形式張らない」という意味で使われることが多いと言え(出典:『Wiki Way - コラボレーションツールWiki』)。

WikiWikiWebのコンセプトを考案したWard Cunningham氏は、米アップルコンピュータが開発した「HyperCard」という、現在のインターネットを思わせるようなアプリケーションの存在をきっかけに、初めのWikiサーバーを開発した。Wikiツールの最大の特徴は、コンテンツの編集が簡単にスピーディーに行えることであり、そういった理由から「Wiki」という名前が付いたとされている。

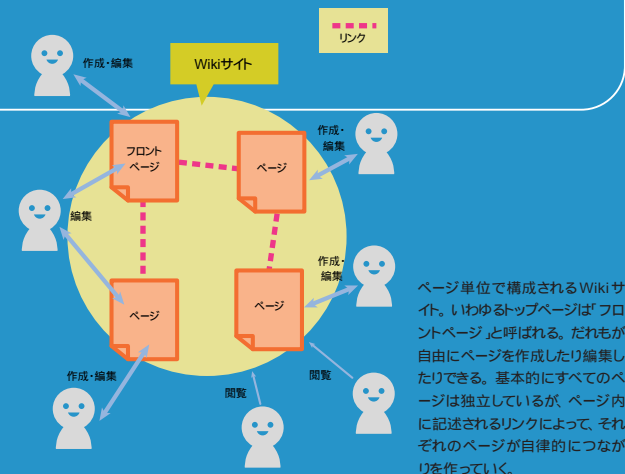
「WikiWikiWeb」を見てみればわかるように、ページはテキストとリンクから成る

実にシンプルな構成になっている。Wikiでは、情報を「ページ単位」で取り扱い、だれもがページを作ったり、内容を編集したりできる。もちろん1つのページの内容を複数の人で編集することもできるし、1人でWikiサーバーを占有することもできる。基本的に各ページ間の関係はなく、利用者が任意で作成する“リンク”の指定により、それぞれのページが自律的につながりを作っていく特徴を持っている(図6)。つまり、作り方によっては「無数のページのアーカイブ」にもなり、また「ディレクトリー構造を持ったサイト」にもなり得るわけなのだ。

Wikiの適用例を示すいいものに、フリー百科事典の「ウィキペディア(Wikipedia)」(図7)がある。これはWikiを使った事典サイトで、だれもが事典の内容を執筆したり編集したりできるものだ。基本はWikiなのだが、“辞書”というルールの下で構成されている。このように、ルールやポリシーを変えれば、どんな風にも姿を変えられるのがWikiなのだ。

このようなコンセプトがちりばめられた発案者Ward Cunningham氏のWikiWikiWebのシステムはオープンソースになっている。

図6 Wikiの基本構成はページ単位が基本



ページ単位で構成されるWikiサイト。いわゆるトップページは「フロントページ」と呼ばれる。だれもが自由にページを作成したり編集したりできる。基本的にすべてのページは独立しているが、ページ内に記述されるリンクによって、それぞれのページが自律的につながりを作っていく。

図7 ウィキペディア



Wikiツールをベースに作られた百科事典サイト。だれもが辞書作りに参加できる実験的な試み。

URL <http://ja.wikipedia.org/>

## 「Wikiクローン」は さまざま

Wikiに魅せられた多くの技術者が、このソースをベースに多言語対応や機能のブラッシュアップなどさまざまな加工を施した「Wikiクローン」を開発している。中には、blogの機能を完全に埋め込んだ「Tikiwiki」や、既存のシステムにWikiの記述ルールを埋め込むサイトもいくつか登場している。クローンベースで数えると、おそらく数十種類のWikiツールが世の中に出回っていると考えられているのだ。日本語に対応したものをざっとリストアップしたので参考にしてほしい。

日本語で動くWikiクローンの代表例

・「YukiWiki」

WikiWikiWebの仕様を参考に開発されたCGI/Perlで動作するWikiクローン。Perlと同じ配布条件で公開されている。

**URL** <http://www.hyuki.com/yukiwiki/>

・「PukiWiki」

PHPで動作するWikiクローン。YukiWikiを参考にPHPに移植したもの。

現在、開発チームによって、さまざまな機能を搭載したバージョンが開発されている。この連載で使うのはこれ。

**URL** <http://pukiwiki.org/>

・「RWiki」

プログラム言語Rubyで動作するWiki。RDフォーマットという記述ルールがある。

**URL** <http://www.jin.gr.jp/~nahi/RWiki/>

## Wikiによるコラボレーションを 実践してみよう

今回から数回にわたって、Wikiクローンを実際にインストールしてページを操作するところから始め、最終的に「数名のチームで新しい企画をまとめるために使う」ことを想定したコラボレーションワークをWikiで実践する。

このテーマを取りあげたことには理由がある。それは電子メールやファイルの交換による作業と、Wikiを使ったコラボレーションに大きな違いがあるからだ(図8)。

メーリングリストの場合、N対Nのコミュニケーションにより、全員に一斉に告

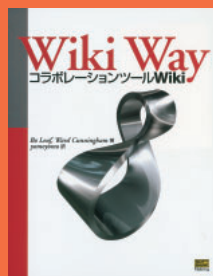
知をする場合に適している。しかし、内容が多岐にわたればわたるほど、收拾がつきにくくなる傾向がある。メールへの添付やファイルサーバーを利用してファイルをやりとりする場合、ファイルのバージョンや排他処理、ファイル名やファイルを保存するディレクトリーの場所など、かなり厳密なルールを作らなければ“情報を一元化する”ことは難しい。これらの制限を乗り越え、かつ多くの作業を非同期で進めることで、チーム全体が自由な発想で企画を組み立てていくのが極めて困難なのは、多くの人が知る事実だろう。

こういったコラボレーションワークに、Wikiを導入すると多くの問題がクリアになる。左ページの図6を見ればわかると思うが、メンバーが集めて整理した情報はすべてのメンバーで共有でき、そのページに対して新しい情報を追加したり、他のページと関連づけたりすればページ全体を整理できる。コメント機能を使えば、意見交換もできる。Wikiを使い、すべてのメンバーが自由に活動することで、集められた情報が自然と整理されていくのである。

では実際にWikiを使ってみよう。

### 詳しくWikiを知るなら

『Wiki Way -  
コラボレーションツールWiki』

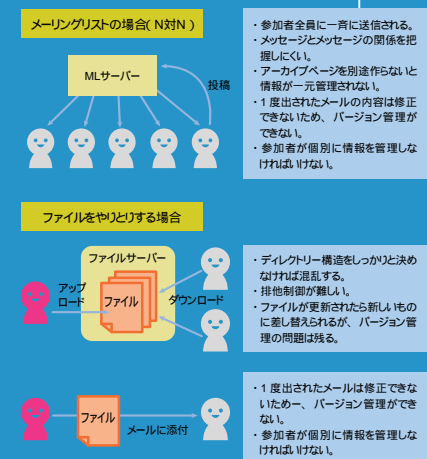


Wikiの概念を考えたWard Cunningham氏も執筆しているバイブル本。Wikiについての詳細な説明や使い方、ソースのカスタマイズの仕方など豊富な情報が収められている。

Bo Leuf, Ward Cunningham 著 / yomoyomo 訳 / ソフトバンクパブリッシング刊 / ISBN4-7973-1832-5

**URL** <http://www1.newweb.ne.jp/wa/yamdass/wikiway/>

図8 メールやファイルによるコラボレーションの違い



Wikiではウェブブラウザだけですべてが済むので、これまでの仕組みを使ったコラボレーションとはまったく異なる作業になることがわかるだろう。



# 30分で始めるPukiWikiコラボレーション

## PukiWikiをダウンロード

今回インストールするのは、PHPで動作する「PukiWiki」(図9)と言うWikiツールだ。ウェブサーバーとPHPのインストールが必須だが、OSはウィンドウズでもLinuxでもかまわない。多くのレンタルサーバーではウェブサーバーやPHPは使えるようになっているはずだ。データベースソフトは必要ない。

今回使うWiki  
PukiWikiバージョン1.3.5  
**URL** <http://pukiwiki.org/>

### 必要となるサーバー環境

- ・ウェブサーバー: Apacheなど
- ・日本語マルチバイト対応のPHP( PHP 4.0.6以降には標準で付属)

ダウンロードはPukiWikiのサイトの左ま

ニューにある「ダウンロード」をクリックして行こう(図10)。バージョンは「1.4系列」と「1.3系列」があるが、動作の安定した公開バージョンは1.3.5になるので、「pukiwiki1.3.5.zip」をダウンロードして、ファイルを解凍しよう(図11)。

## ファイルの設定

ファイルをサーバーにアップロードする前に、PukiWikiの設定ファイル「pukiwiki.ini.php」に必要な情報を書き加える。テキストエディターなどで開いて編集しよう。編集する箇所は次のとおりだ。

### pukiwiki.ini.phpの編集

- 1 51行目付近の、編集者の名前とホームページを編集。
- 2 58行目付近の、Wikiサイトのタイトルを編集。
- 3 66行目付近の、パスワード。管理者は

ページを編集できないようにできるのだが、そのページを再び使えるようにするためのパスワードとなる。「\$adminpass ~」の部分を以下のように書き換えて、「pass」のところにパスワードを入力する。

#### 設定ファイルの編集①

```
// 編集者の名前 (自由に変えてください)
$modifier = 'maskin';
////////////////////////////////////
// 編集者のホームページ (自由に変えてください)
$modifierlink = 'http://www.metamix.com/';
```

#### 設定ファイルの編集②

```
// ホームページのタイトル (自由に変えてください)
// RSS に出力するチャンネル名
$page_title = "METAMIX! Wiki"
```

#### 設定ファイルの編集③

```
// 凍結解除用の管理者パスワード (MD5)
// pukiwiki.php?md5=pass のようにURLに入力し
// MD5にしてからどうぞ。面倒なら以下のように。
// $adminpass = md5("pass");
```

図9 PukiWiki



この連載で使用するWikiはPukiWikiだ。  
**URL** <http://pukiwiki.org/>

図10 PukiWikiのダウンロード



安定版の1.3がおすすめ。バージョン番号の数字が大きい方が新しいもの。

```
// 以下は pass のMD5パスワードになっています。
$adminpass = md5("pass");
```

## アップロードとインストール

設定ファイルの編集が完了したら、アップロードだ。ウェブサーバーの任意の場所に、すべてのファイルをアップロードする。サーバーに「pukiwiki」ディレクトリーを作っ てインストールするのがいいだろう。アップロード後は、PukiWikiを正常に動作させるために、ファイルやディレクトリーに対して権限設定(パーミッション)を行う。アップロードの際の転送モードやパーミッションの設定は次のとおりだ。

### インストール時の転送モードとパーミッション

ファイルの種類	パーミッション	転送モード
*.phpファイル	644	ASCII
*.lngファイル	644	ASCII
*.cssファイル	644	ASCII
*.jsファイル	644	ASCII
*.gif	644	BINARY

ディレクトリー	パーミッション
PukiWikiディレクトリー	755
attach, backup, counter, diff	777
plugin, skin	755
wiki	777(中身は666)

## 始めの一步 ~メモ帳として使ってみる

インストールが終了したら、ブラウザで「pukiwiki.php」を開いてみよう。図11のような画面が表示されれば成功だ。問題がある場合は、パーミッションの設定をもう一度見直してみよう。

始めに表示される「FrontPage」には、PukiWikiに関する基本情報などが並んでいる。「新規」をクリックしてタイトルを入力すれば、新しい白紙のページが作成される(図12)。

何かテキストを入力して、「ページの更新」ボタンを押してみよう。ページとして保存され、左側の「最新リスト」にも表示されたはずだ。ページの「編集」を押して編集画面に戻り、画面下の「テキスト整形のルールを表示する」をクリックする。Wikiでは、普通のテキスト以外にも、簡単な記号でHTMLのような表現を指定できる。詳細は次回に回すが、このページに書かれているルールを見ていると試してみるといい。

再びFrontPageに戻って、リンクをクリックして他のページも見よう。すべ

てのページを「編集」ボタンで編集できる。内容を消して「ページの更新」ボタンを押せば、そのページを消すことができる。

思ったことをどんどんページに書き込んでみよう。登録したページは、最新リストはもちろん、メニューの「一覧」でも見られるし、「単語検索」で全文検索もできるのだ。

この連載でWikiを取り上げることにした直後、多くの人から「Wikiを説明するのは難しい」と指摘された。実際に、この初回テキストは想像以上に難産だった。Wikiは、それほどまで斬新で自由度の高いツールなのだが、おおむね理解していただけたらどうか。次回は、テキスト整形ルールを中心に、より具体的な活用法と、Wikiのポテンシャルについて説明したい。

なお、今回も例によってこの連載と連動したWikiを用意した。ぜひ利用してほしい。

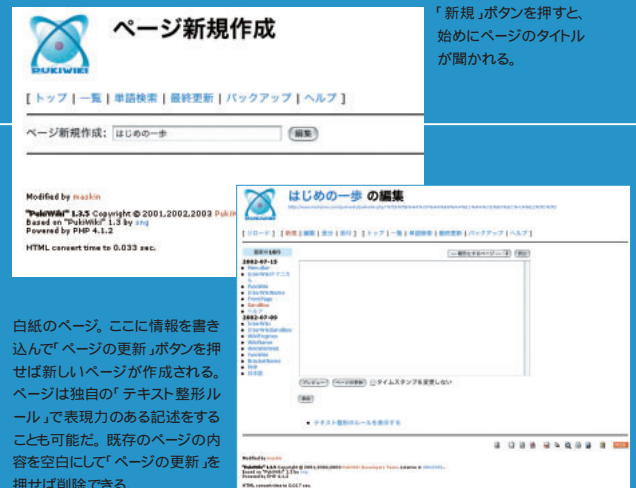
**URL** <http://www.mtamix.com/pukiwiki/>

図11 インストール直後のWiki



pukiwiki.phpが入り口となる。すでにPukiWikiなどに関する情報が保存されている。左側には最近登録されたページのリストが、メイン部分には「FrontPage」と呼ばれる標準で設定されたトップページが表示される。

図12 新規ページの作成



白紙のページ。ここに情報を書き込んで「ページの更新」ボタンを押せば新しいページが作成される。ページは独自の「テキスト整形ルール」で表現力のある記述することも可能だ。既存のページの内容を空白にして「ページの更新」を押せば削除できる。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)